

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒110-0016 東京都台東区台東1-14-11
ヒロキビル ヒロエンジニアリング(株)内
TEL (03) 5812-4111
FAX (03) 3833-6674
MAIL toukankyo@car.ocn.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

★ 平成30年度 技術研修会報告

★ 新年のご挨拶

- ・東京都環境計量協議会 会長 佐藤 隆
- ・東京都環境局 環境改善部長 笥 直 様
- ・東京都生活文化局 計量検定所 検査課長 下村 欣吾 様
- ・(一社) 日本環境測定分析協会 会長 松村 徹 様

★ 平成31年 賀詞交歓会報告

★ 合同研修会報告

★ 関係機関・団体の動き

- ・首都圏環境計量協議会連絡会
- ・(一社) 神奈川県環境計量協議会
- ・(一社) 埼玉県環境計量協議会
- ・千葉県環境計量協会
- ・(一社) 日本環境測定分析協会

★ 東環協からのお知らせ

- ・平成30年度：行事終了のお知らせ
- ・平成31年度：今後の主要行事予定
- ・事務局からのお知らせ

平成 30 年度 技術研修会報告

本年度の技術研修会は、昨年度と同様に新年の賀詞交歓会と同日の開催とさせて頂き公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所環境リスク研究科 主任 根本 忠浩様をお招きして「東京都環境科学研究所における行政検体の分析精度管理」というテーマでご講演頂きました。

日 時 : 平成 31 年 1 月 24 日(木) 15:30~16:20
場 所 : アルカディア市ヶ谷 7階 「妙高」
参加者 : 会員 26 社 40 名、協賛企業 3 社 5 名、来賓 1 名

東環協 佐藤会長の挨拶



挨拶する佐藤会長

只今、ご紹介頂きました当協議会の会長を務めさせて頂いております(株)分析センターの佐藤です。1月も後半となりましたが、会員皆様との顔合わせは、本日が初となりますので、新年明けましておめでとうございます。まずは、昨年中は種々の事業活動に対しまして、ご理解、ご協力頂き誠に有難うございました。また、本年も新春事始めとなります本日の技術研修会に、昨年度を上回る 46 名の方々にご参加頂き、本当に有難うございます。

さて、今年度は公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所環境リスク研究科主任の根本 忠浩氏に「東京都環境科学研究所における行政検体の分析精度管理」というテーマでご講演を頂きます。行政検体と申しますのは、東京都環境局などから同研究所が委託された分析依頼案件の検体という事で、東京都の水環境や大気環境を常時監視して、都内の環境保全に務め「都民の安全・安心」に資する極めて社会的役割が高い業務であります。その業務の一つには、我々民間の分析会社(=環境計量証明事業者)が一般競争入札等によって落札した案件について、実試料を分割してクロスチェック頂いている案件もあるようです。仮に、その分析データに相違が見られる場合には、環境局の職員と共に落札業者のラボに赴き、野帳や分析機器データなどの立入検査を行う場合もあるようです。本日は、そうした実案件の立入事例も紹介頂けると思いますので、我々業者側の精度管理にも直結した実践的なお話が聞けるものと思います。若手技術者の方々には、そうした東京都の環境行政に携わる同研究所が実施されている精度管理について学習頂き、是非、その手法をラボに持ち帰って頂いて社内において水平展開をして頂く事によって、東環協会員企業の精度管理がより一層向上頂ければ主催者としても幸いです。最後に、この技術研修会の後には、恒例の新春賀詞交歓会も予定しておりますので、本日の講義内容を話題として、大いに会員相互の交流を深めて頂ければと思います。誠に簡単ですが、開会の挨拶とさせていただきます。

1. 講演 (15:35～16:20)

演 題：「東京都環境科学研究所における行政検体の分析精度管理」

講 師：公益財団法人 東京環境公社 東京都環境科学研究所

環境リスク研究科 主任 根本 忠浩 様



講演する根本様

はじめに、東京都環境科学研究所 1968 年発足後の沿革、役割、組織、調査研究と技術支援の内容などの概要について、説明がなされた後、本日のテーマである分析精度管理の実態と精度管理向上に関するご講演を頂きました。

本講演では、水質分析を中心に分析精度管理について解説頂きました。具体的には、各公共用水域での調査に至る背景や目的、それらが東京都の水環境、水質規制と水質汚濁の常時監視体制の構築や信頼性確保の観点から重要であること。また、外部に委託された分析業務の精度管理が「法令順守」及び「環境実態の把握」の観点から極めて重大であることの説明がされました。また、有害大気汚染物質やダイオキシン類など水質以外の各分野の汚染項目でも幅広く実施されていることの説明も補足されました。

分析精度管理に関する業務の実際例としては、1.SOP(標準作業手順書)のチェック、2.試験室への立入(同行)、3.クロスチェック(同一試料の比較分析)の3つの業務が重要であることを「環境測定分析を外部に委託する場合における精度管理に関するマニュアル」(H22年7月環境省)に基づき細かく説明が有りました。

SOPのチェック項目としては、①公定法、JIS等への準拠の状況、②試料の採取・保存の方法及び使用器具、③試料の調製方法、④機器の操作方法、維持管理方法、⑤目的とする濃度(精度)が測定できるか等について精査されているとのことでした。クロスチェックについては、委託元が実施する外部精度管理として、マニュアルに示されている4つの方法から①実試料を分割して行い、分析結果の不一致等の違いを確認し、改善の指摘等を行っているとのことでした。不一致要因の主なものは、野帳の確認ミス(転記ミス、計算ミス等)、検体取り違い、試料保存状態の不備等があり、それらの実態に関する検証作業を細かく行っているとのことでした。また、原因究明されない場合は、再分析、再度クロスチェック、再度立入検査を行う場合もあることです。平成29年度の実施事例数として、「クロスチェック項目」については、特定事業所、河川、東京湾、地下水を対象に1363項目を実施しているとの報告が有りました。

分析精度管理の「研究事例」としては、事業所排水における全窒素の挙動に関する研究成果について、クロスチェックの際の「2つの方法による分析」による不一致要因となった検証結果の報告事例が示されました。

以上の講演内容は、東環協会員の日頃の分析業務の精度管理の実情等にも重なる事例についての解説であり、精度管理向上に向けた取組みとして必要な事柄を再認識させられる貴重なものでした。ご講演、ありがとうございました。



受付の様子



会場の様子



ご講演の様子



質疑応答の様子

平成30年度 東京都環境計量協議会 技術研修会

東京都環境科学研究所における 行政検体の分析精度管理

2019/1/24 (木)

(公財) 東京都環境公社 東京都環境科学研究所
環境リスク研究科
根本 忠浩

1

目次 ～行政検体の分析精度管理～

- 1 東京都環境科学研究所の概要
- 2 分析精度管理の必要性
- 3 分析精度管理の実際
- 4 分析精度管理に関する研究事例
- 5 まとめ

1

講演資料の抜粋

平成 30 年度 技術研修会 次第

日 時： 平成 31 年 1 月 24 日（木） 15 時 30 分～16 時 20 分
(受付開始：15 時 00 分)

会 場： アルカディア市ヶ谷 7 階 「妙高」
東京都千代田区九段北 4 丁目 2-25 TEL：03-3261-9921

挨 拶： 東京都環境計量協議会 会長 佐藤 隆

講 演： 15:35～16:20
「東京都環境科学研究所における行政検体の分析精度管理」
(公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所
環境リスク研究科 主任 根本 忠浩 様

閉 会： 16:20

司会(進行役)



五十嵐副会長

平成 30 年度 技術研修会 参加者

平成 31 年 1 月 24 日 於 アルカディア市ヶ谷 7 階 「妙高」

来 賓

(一社) 日本環境測定分析協会 会 長 松 村 徹 様

会 員

No	会 社 名	氏 名	備 考
3	いであ (株)		
5	(株)オオスミ		
6	(株)環境管理センター		
7	(株)環境技研 (板橋)		
8	(株)環境技術研究所		
10	(株)環境総合テクノス		
11	(株)環境総合リサーチ		
12	環境リサーチ(株)		
14	シグマジオテック(株)		
16	(株)島津テクノリサーチ		
17	新日本環境調査 (株)		
19	(株)総合環境分析		
20	帝人エコ・サイエンス (株)		
22	(一財)東海技術センター		
23	(株)東京環境測定センター		
24	(株)トーニチコンサルタント		
26	(株)日新環境調査センター		
27	(株)日本公害管理センター		
28	(株)日本シーシーエル		
29	(株)日本総合科学 東京支所		
30	日本物理探鑛 (株)		
32	(株)日本分析		
34	ヒロエンジニアリング (株)		
38	(株)分析センター		
39	環境工学研究所		賛助
40	ビーエルテック(株)		賛助

26社 40名

協賛企業

No	会 社 名	氏 名	備 考
1	日本インスツルメンツ(株)		賛助
3	松田産業(株)		賛助
5	ラボテック(株)		賛助

3社 5名
来賓 1名
合計 46名

新年のご挨拶

『新年挨拶』

東京都環境計量協議会
会長 佐藤 隆



佐藤会長

只今、ご紹介頂きました当協議会の会長を務めさせて頂いております(株)分析センターの佐藤でございます。この賀詞交歓会からご参加頂いている方々とは、初の顔合わせになりますので、改めまして新年明けましておめでとうございます。

さて、この賀詞交歓会の前には、2019年の最初の行事と致しまして、「技術研修会」を開催させて頂きました。ここにご参集の多くの方々にもご聴講頂いたと思いますが、本日は、

東京都環境科学研究所環境リスク研究科主任根本忠浩様に「行政検体の分析精度管理」というテーマで講演頂きました。その講義の中身には我々環境計量証明事業所が落札した環境局等の案件について、クロスチェックも実施されているとの事でした。そして、分析データに相違が見られる場合には、環境局の立入検査にも同行して原因追及されるという事でした。立入された会社に取りましては、身の引き締まる思いですが、本来、化学度量衡の世界は、周知の通り、物理量とは異なり、統一的なトレーサブルが執り難い分野です。すなわち、同じ環境水中の重金属類を分析する場合でも、各社でどのような標準物質を使って、どのような前処理を行い、最終的にどのような分析装置を使って導き出された答えかという、それぞれの要因毎に誤差が生じる分野であるため、こうした第三者機関としてのクロスチェックの役割は大変重要な業務と思います。

残念ながら、昨年一昨年に引き続き、大手メーカーによる製品性能試験に関するデータ改竄問題がニュースにありましたが、その原因の一つには検査機関が関連子会社という共通点で本来の試験所が求められる「利害関係のない第三者機関による試験データ」ではなかった。という点があるかと思います。なので、個人的には将来的に全ての試験・分析データを所管する検査省という省庁が創設されて、それなりの予算をもってして日本の試験データは複数の検査・分析機関によるクロスチェック済みが当たり前といった認証制度が導入されれば同業界がスキルアップすると共に、日本製品の信頼性が担保される結果、第三者検査機関としてそれぞれ経済的にも潤うと考えます。そうした検査・分析業界の国内独自の認証制度を夢見て行きたいと思っております。

さて、最後に今年はイノシシ年という事で、弊社の年賀状にも書いたのですが、イノシシのイメージは猪突猛進ですが、実は素早い方向転換能力とジャンプ力に優れた俊敏な動物だそうです。なので、当協議会も是非イノシシにあやかかって、俊敏に話題性のある事業活動を行うことで大きくジャンプ（飛躍）し、若手に魅力を感じてもらえる業界にしたいと思っておりますので、会員皆様のご協力をこれまで以上にお願い申し上げます。

誠に簡単ですが、年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

『新年挨拶』

東京都環境局 環境改善部長
 寛 直 様



寛 直 様

皆さん明けましておめでとうございます。

只今ご紹介頂きました東京都環境局 環境改善部長の寛でございます。日ごろより東京都環境計量協議会及び会員の皆様には東京都の環境行政に対し、格別のご理解とご協力を頂き、心より御礼申し上げます。年頭に当たりひとことご挨拶を申し上げます。

今年は5月に改元を控えており、新たな時代の幕開けの年となります。9月にはラグビーのワールドカップ 2019 の開催を迎え、また、来年の東京 2020 オリンピックパラリンピックもいよいよ目前に迫って参りました。東京都では東京 2020 大会とその先を見据え、東京で暮らし、働き、そして訪れる皆さん誰もが快適に過ごすことができ、将来に渡って持続可能な環境先進都市東京を目指しているところでございます。

我々、環境局 環境改善部では、その中で快適な大気環境、良質な土壌の確保など様々な事業に取り組んでいるところですが、50年先、100年先も安心して暮らすことができる環境づくりは、皆様方の信頼性の高い測定分析技術が不可欠と考えているところでございます。東京都環境計量協議会並びに会員の皆様におかれましては引き続き東京都の環境行政にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が皆様にとり、より良い年でありますよう心からお祈りを申し上げますとともに、益々のご発展とご多幸を祈念致しましてわたしからの新年のご挨拶にさせていただきます。本日はどうも有難うございます。



会場風景

『新年挨拶』

東京都生活文化局計量検定所 検査課長

下村 欣吾 様



下村 欣吾 様

皆様、明けましておめでとうございます。

私は、只今ご紹介頂きました東京都生活文化局 計量検定所 検査課長をしております下村と申します。よろしくお願ひ致します。平成 31 年賀詞交歓会がこのように盛大に開催されたことを心より慶び申し上げます。また、この場にお招きいただきまして誠に有難うございます。

平成 30 年度開始時点での東京都における環境計量証明事業者登録数は 144 事業所となっております、また、その皆様が発行している環境計量証明書の件数は、若干年ごとにばらつきがありますが、年間 8 万件前後となっております。これらの結果一つひとつが、都を始めとする地域の良好な環境の創出、生活者の安心・安全の確保に役立てられていると認識しております。

さて、私ども計量検定所 検査課では、概ね 3 年に 1 回の周期で、環境計量証明事業者の皆様へ計量法に基づく立入検査を実施しております。その立入検査においては、事業登録基準の遵守状況の他、事業運営の適否等を確認するため、主に組織体制や設備の点検状況、計量証明書の発行状況等を重点的に検査し、不適正が確認された場合には改善指導を行うことで事業の適正化に努めているところでございます。しかしながら、この立入検査の合格のみをもって環境計量証明事業の実質的な適正性がすべて担保されるわけではございません。何よりも、分析に携わる技術者の皆様が高い倫理観を持って業務に臨むこと、そして分析の精度を確保するための取組みを怠らないことが重要であると考えております。こうした中、東京都環境計量協議会様におかれましては、技術研修会や事例発表会など様々な自主的な取組みにより環境計量に関する知識・技術の維持・向上にご尽力されており、環境計量証明事業の社会的な信頼性向上に大きく貢献されているものと存じます。また、協議会の皆様方には 11 月 1 日の計量記念日に新宿駅西口で行われております「都民計量のひろば」の運営に毎年ご協力を頂いております。こうした普及啓発活動を通じて、環境計量に関する社会的認知度を高めて行くことは環境計量証明の健全な発展のために非常に大切なことであると認識しております。このように、私どもの行事についても日頃より深いご理解と多大なるご支援をいただいていることをこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。今後とも計量検定所の業務につきましてご支援いただきます様、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、東京都環境計量協議会の皆様の益々のご発展と本日ご参会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念致しまして、はなはだ簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

『新年挨拶』

(一社)日本環境測定分析協会
会 長 松村 徹 様



松村会長

明けましておめでとうございます。

日環協会長の松村でございます。日頃、日環協の活動に關しまして東環協の佐藤会長をはじめ会員の皆様には大変お世話になっております。この場を借りて御礼申し上げます。

本日の技術研修会において根本様のご講演や佐藤会長の新年のご挨拶にもありましたように、品質を確保するということが、これからの日本、敷いては我々の業務の重要な使命だと思っております。日環協でもいくつかの取組みをしておりますので、

本日はひとつだけご挨拶を兼ねてご紹介させて頂きたいと思っております。

日環協では、ご存じのように技能試験を年に何回か実施しています。この技能試験や標準物質の作製は ISO/IEC17043、ISO/IEC17034 の国際規格に準じて実施しています。また、その際に使用した組成標準を標準物質として有償で配布させて頂いております。

近々、ホームページ (HP) 上で、日環協の技能試験に参加している試験所、標準物質を購入している試験所について、発注者が検索できるシステム構築を計画しております。今までは発注者の方が、どの試験所が技能試験に参加しているかを調べられない状況でした。それをたとえば、イメージですが、底質の重金属で検索すれば、何年にどの試験所が日環協の技能試験に参加している、標準物質はどの標準物質をこの試験所が購入して品質管理に役立てているかを簡単に検索できるというようなシステムでございます。

簡単に言うと、是非、日環協の技能試験にご参加ください、また標準物質を購入してくださいということでもありますが、実務としても良いシステムだと思います。是非、東環協の皆様にもご利用いただければ幸いですし、ひいては日環協にも入っていただければいいなと感じています。

本年も東環協の皆様方とは積極的に関わりを持ちながら、環境計量の進展に努めたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



会場風景

平成 31 年 東環協賀詞交歓会報告

新年あけましておめでとうございます。賀詞交歓会につきましてご報告致します。本年の賀詞交歓会は、会員 30 社 66 名、来賓・協賛企業の方々も含め、総勢 80 名の皆様にご参加頂きました。

日 時 : 平成 31 年 1 月 24 日 (木) 17:00~19:00
場 所 : アルカディア市ヶ谷 6 階 「霧島」

初めに、当協議会の佐藤会長より挨拶、来賓の皆様の紹介が行われました。

今年の賀詞交歓会では来賓として、東京都環境局より環境改善部長 笥 直様、東京都生活文化局計量検定所検査課長 下村欣吾様、(一社)日本環境測定分析協会 会長 松村 徹様、同協会・関東支部 支部長 津上昌平様にご臨席頂きました。

来賓からの挨拶と致しまして、笥部長、下村課長、松村会長より、それぞれ新年のご挨拶を頂戴致しました。

来賓からの激励及びご支援等のお言葉を頂き、お待ちかねの乾杯となり、津上支部長より乾杯のご発声を頂きました。「平成」時代の最後の年となります今年一年がより良い年となるよう祈りを込めてビールを飲み干し、懇親会が始まりました。沢山のご馳走を前に、お酒を酌み交わし、情報交換・名刺交換等が行われていました。



乾杯の挨拶をする津上支部長

和やかな会場の雰囲気により、新年の賀詞交換も進み、皆さん積極的にお話されていました。初めて参加された方は他企業の方に声を掛けるのは勇気が要りますが、賀詞交歓会の前に開催された技術研修会から参加されていた方々は、発表内容についての意見交換、共通する研究テーマ等について活発に情報交換等をする様子も多く見受けられました。毎年参加頂いている方々からは、近況確認の話題も多く、恒例の挨拶風景が会場全体で見られました。

歓談が続き緊張も解けて交流の場が盛り上がったところで新会員の紹介となり、賛助会員としてジーエルサイエンス(株)様よりご挨拶を頂きました。



ジーエルサイエンス(株)

次に、協賛企業の紹介とアピールタイムとなりました。司会者のアナウンスにより高圧ガス工業(株)様、(株)東京技研様、松田産業(株)様、ラボテック東日本(株)様、日本インスツルメンツ(株)様に壇上に上がって頂き、各社一言ずつ企業紹介、製品のPR等をして頂きました。



高圧ガス工業(株)



(株)東京技研



松田産業(株)



ラボテック東日本(株)



日本インスツルメンツ(株)

続いて、恒例のビンゴ大会です。今年も例年のとおり司会者2名(久木元様、笹嶋様)による進行の下、ゲームがスタートしました。賞品は毎年大好評の「お米券！」を始め、その他様々な賞品が用意されており、参加者全員の注目の中進められました。

番号読上げが始まり、中々ビンゴ成立が出ないなか、1番目のビンゴ成立となった後は続々とビンゴとなった方々が押し寄せ、賞品の受け渡し場所に行列ができ盛況でした。当協議会のビンゴ大会の良いところは、参加者全員に賞品が行き渡るだけでなく、ビンゴ一番乗りでなくても「お米券！」を手にするチャンスもあることです。ビンゴ成立が遅かった方も最後には無事にビンゴが成立し、多く有った賞品もようやく皆さんに渡し終えました。皆さん、ご協力大変ありがとうございます。



番号を読み上げるビンゴ進行役



懇談する参加者

大盛況のうちに、この賀詞交歓会の最大のイベントであるビンゴ大会も無事に終了しました。



石山理事による中締め

楽しく過ごした賀詞交歓会も閉会の時間を迎え、石山理事により中締めをして頂き、お開きとなりました。ご参集頂いた皆様、ありがとうございました。

会員の皆様におかれましては、今年も良い年になりますことを祈念致しますと共に、実り多い社業発展の年となりますよう、役員一同、心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

平成 31 年 東環協賀詞交歓会 次第

(敬称略)

- 総合司会 東京都環境計量協議会 理 事 木村直樹
1. 開 会 17 : 00
 2. 開会挨拶
東京都環境計量協議会 会 長 佐藤 隆
 3. 来賓紹介
 4. 来賓挨拶
東京都環境局 環境改善部 部 長 笥 直 様
東京都生活文化局 計量検定所 検査課長 下村欣吾 様
(一社)日本環境測定分析協会 会 長 松村 徹 様
 5. 乾 杯 17 : 30
(一社)日本環境測定分析協会関東支部 支部長 津上昌平 様
 6. 新会員紹介 17 : 50
・ジーエルサイエンス(株) (賛助会員)
 7. 協賛企業紹介(賛助会員を含む) 17 : 55
・高圧ガス工業(株)
・(株)東京技研
・松田産業(株)
・ラボテック東日本(株)
・日本インストルメンツ(株)
 8. ビンゴ大会 18 : 15
 9. 中 締 め 19 : 00
東京都環境計量協議会 理 事 石山直樹

平成 31 年 東環協 賀詞交歓会出席者名簿

平成 31 年 1 月 24 日 (木)

於 アルカディア市ヶ谷 6 階「霧島」

来 賓

東京都環境局	環境改善部長	笥 直 様
東京都生活文化局計量検定所	検 査 課 長	下村 欣吾 様
(一社) 日本環境測定分析協会	会 長	松村 徹 様
〃	関東支部支部長	津上 昌平 様

会 員

No	会 社 名	氏 名	備 考
4	いであ (株)		
5	(株)エオネックス		
10	(株)オオスミ		
11	(株)化学分析コンサルタント		
14	(株)環境管理センター		
16	(株)環境技研 (板橋)		
18	(株)環境技術研究所		
20	(株)環境総合テクノス		
24	(株)環境総合リサーチ		
26	環境リサーチ(株)		
28	シグマジオテック(株)		
30	(株) 島津テクノリサーチ		
32	新日本環境調査 (株)		
34	(株)総合環境分析		
36	帝人エコ・サイエンス (株)		
38	(一財) 東海技術センター		
41	(株)東京環境測定センター		
42	(株)トーニチコンサルタント		
44	(株)日新環境調査センター		
46	(株)日本公害管理センター		
47	(株)日本シーシーエル		
48	(株)日本総合科学 東京支所		

5 1	(株)日本分析		
5 5	ヒロエンジニアリング (株)		
5 9	(株)分析センター		
6 1	ムラタ計測器サービス (株)		
6 2	環境工学研究所		賛助
6 3	ビーエルテック (株)		賛助
6 4	三浦工業 (株)		賛助
6 6	ジーエルサイエンス(株)		賛助

30社 66名

協賛企業

No	会社名	氏名	備考
2	高压ガス工業 (株)		賛助
4	(株)東京科研		賛助
6	松田産業(株)		賛助
8	ラボテック (株)		賛助
10	日本インストルメンツ(株)		賛助

5社 10名

来賓 4名

合計 80名



案内板



受付の様子



懇談風景



総合司会 (木村理事)

平成 30 年度 環境計量証明事業団体合同研修会 参加報告

東京都環境計量協議会 首都圏環協連担当

東環協が所属する「首都圏環境計量協議会連絡会（首都圏環協連）」は東京、埼玉、神奈川、千葉の 1 都 3 県の県単で構成され、環境測定技術の向上はじめ、環境計量証明事業に関する諸問題を共有化して改善するために年数回会合を開き情報・意見交換している任意団体です。そして、数年前より交流活動を全国区に広げた合同研修会を年一回開催することとなり、今年度は一般社団法人神奈川県環境計量協議会（神環協）が代表幹事として、下記会場にて 17 団体等の組織が参加して開催されました。また、今年のメインテーマは「災害時の支援協定について」であり、実際に神環協と神奈川県が昨年支援協定を締結されたことから、来賓として神奈川県環境農政局と環境科学センターの職員にもご参席頂きました。

《開催日・場所》

平成 31 年 2 月 5 日（火）14:00～

ホテル横浜ガーデン（横浜市中区下町 254 番地）

《プログラム》

総合司会 増田副会長

・導入部

首都圏環境計量協議会連絡会冒頭あいさつ

代表幹事 梶田 哲弘

出席者のご紹介（自己紹介による）

・第 1 部 『災害時の支援協定について』

・首都圏環境計量協議会連絡会を代表して、埼環協の野口裕司氏が講師となり、下記 4 つをテーマとした講義を 30 分実施された。

(1) (導入) 危機管理について

(2) 自治体への支援協定について

(3) 環境計量業界における支援協定について

(4) 環境計量業界団体の相互応援について

・第 2 部 『最低制限価格についての討論会』

・神環協の増田副会長（司会）が座長となり、パネルディスカッション形式で 60 分実施された。具体的には、各県単における実情を意見交換したが、共通意見としては、他県から参入した業者が一般競争入札案件等についてダンピングを行ったためであり、それが継続的となって低価格化が定着するとの意見が多かった。

また、首都圏連合会として引き続き建設物価本出版委員と意見交換していく旨が紹介された。

・第 3 部 『意見交流会』

・横浜中華街「三和楼」に場所を移動して、第 1 部、第 2 部を通して、個別な意見交流を実施した。各県単メンバーが 3 卓に分かれて着席することで、1 卓の中で多くの県単が情報交換できるよう配慮して実施された。

【参加団体】（順不同）

首都圏環境計量協議会連絡会〔東京都環境計量協議会、（一社）神奈川県環境計量協議会、（一社）埼玉県環境計量協議会、千葉県環境計量協会〕、（一社）群馬県計量協会環境分科会、長野県環境測定分析協会、（一社）福島県環境測定・放射能計測協会、（一社）山形県計量協会環境計量証明部会、（一社）愛知県環境測定分析協会、大阪環境測定分析事業者協会、（一社）福岡県環境計量証明事業協会、北海道環境計量証明事業協議会、堺市環境計量協議会、横浜市環境技術協議会、（オブザーバー参加）（一社）日本環境測定分析協会、神奈川県環境農政局、神奈川県環境科学センター
・・・計 17 団体

今回の研修会では、前述のとおり「災害時の支援協定」をテーマと致しました。講師を務めた埼環協の野口氏の調べによりますと、実際に県あるいは市（下水道事務所含む）等の行政側と支援協定を締結した県単および市単は、福島県・山形県・群馬県・埼玉県・神奈川県・横浜市・長野県・愛知県・堺市の9団体に及んでおり、今後ますますBCPの観点から増大すると予想される他、県単同志の相互応援協定も増えると予想されます。今後、東環協も東京都とそうした災害協定（特に、災害時におけるアスベストのモニタリング調査）に関する意見交換を積極的に行い、何らかの災害支援協定策を締結できるように活動する所存です。

関係機関・団体の動き

平成 31 年 3 月現在で、既に実施または今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

- 首都圏環境計量協議会連絡会
 - ・平成 30 年度 環境計量証明事業団体合同研修会 2 月 5 日 ホテル横浜ガーデン
 - ・新任者教育セミナー 6 月 19 日 日環協研修室

- (一社)神奈川県環境計量協議会
 - ・土壌汚染対策法改正に係わる特別講演会 3 月 25 日 ホテル横浜ガーデン
 - ・通常総会 5 月 29 日 ホテル横浜ガーデン

- (一社)埼玉県環境計量協議会
 - ・通常総会 5 月 24 日 ラフレさいたま

- 千葉県環境計量協会
 - ・通常総会 4 月 24 日 プラザ菜の花

- (一社)日本環境測定分析協会
 - ・通常社員総会 5 月 21 日 タワーホール船堀

東環協からのお知らせ

○平成 30 年度：今後の主要行事予定

- ・今年度の行事は全て終了しました。

○平成 31 年度：今後の主要行事予定

- ・平成 31 年度第 42 回通常総会 5 月 8 日(水)に実施予定

○事務局からのお知らせ

- ・平成 31 年度の通常総会は、詳細が確定しましたら、ご案内を差し上げます。

・現在の会員数（平成 31 年 3 月現在）

正 会 員	64社		
賛助会員	21社	合 計	85社

・編集後記

遅くなりましたが、1 月 24 日に開催された技術研修会と同日に行われた賀詞交歓会を中心に編集した平成 30 年度最後の「東環協ニュース」第 170 号を発行致しました。本年も東環協会員の更なる発展のために、事務局として微力ながら尽力していきたいと決意しておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

アジレントの幅広い元素分析製品群

原子吸光からトリプル四重極ICP-MSまで
- 独自の技術を備えた革新的な製品 -



原子吸光

ファーストシーケンシャル
による高い生産性を実現



4210 MP-AES

窒素プラズマによる安全性・
低いランニングコストを実現



5110 ICP-OES

高精度・迅速測定・簡単操作
を実現



7800 ICP-MS

自動最適化ツールとルーチン
分析を容易にするプリセット
メソッドを搭載



7900 ICP-MS

最高の性能を誇る卓越した
感度、マトリックス耐性、
ダイナミックレンジ
などを実現



8900 トリプル四重極ICP-MS

MS/Mテクノロジーによる
優れた干渉除去機能と
優れたアバundance感度を実現

アジレント・テクノロジー株式会社

〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1

フリーダイヤル 0120-477-111 www.agilent.com/chem/jp

人と技術と環境の調和

Harmony among People, Technology, and Environment

高圧ガス工業グループ

安全

アセチレンガスのトップメーカーとして無事故の実績を水平展開する事によりガスの安全を追及

技術

安心

事業継続計画(BCP)による高圧ガス工業グループのガス充填工場5ヶ所(首都圏)より安定したガス供給体制

サービス

高圧ガス工業グループ33カ所(首都圏)体制によるフットワーク

JCSS標準ガス

キャリアガス

非接触型LSIカード

容器管理システム

ネットワークであらゆるニーズにお応えします

特殊塗料

衝撃吸収シート

瞬間接着剤

設計・製作・工事



高圧ガス工業株式会社

本社
東京事務所

大阪府大阪市北区中崎西2丁目4番12号 梅田センタービル28階
東京都千代田区内幸町1丁目2番1号 日土地内幸町ビル9階
ホームページ <http://www.koatsugas.co.jp>

TEL:06-7711-2570(代)
TEL:03-3595-3128(代)

環境分析用 標準試薬

認証標準物質 (CRM)

ジーエルサイエンスは、権威ある認定機関A2LAよりISO/IEC 17025およびISO 17034の認定を取得した工場で生産される標準液をラインアップしています。証明書には、認証値及び不確かさが記載され、トレーサビリティが確保されていることが示されます。



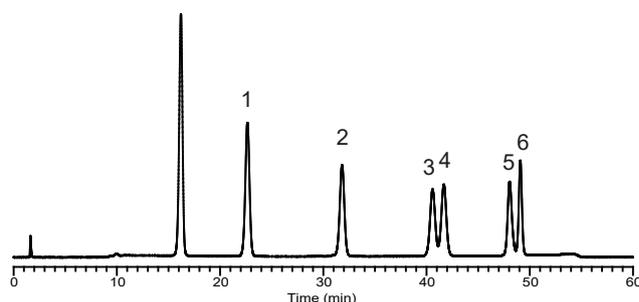
NEW

アルデヒド-DNPH 6種 混合標準液 2 mL×5本
(各0.1 mg/mL as aldehyde in アセトニトリル)
Cat.No.1021-10078

NEW

TOC 標準液 1000 µg/mL as C 1本
(100 mL) Cat.No.1021-12015
(500 mL) Cat.No.1021-12014

【HPLCによるアルデヒド6成分の分析】



Conditions

Column : InertSustain PFP
(5 µm, 250 × 4.6 mm I.D.)
Eluent : A) CH₃OH/CH₃CN=9/1, v/v B) H₂O
A/B = 40/60 – 40 min – 53/47
– 10 min – 70/30 – 0.1 min – 40/60, v/v
Flow Rate : 1.0 mL/min
Col. Temp. : 40 °C
Detection : UV 360 nm (UV7750 UV Detector)
Injection Vol. : 10 µL

Sample:

1. DNPH-Acetaldehyde 4. DNPH-Isobutyraldehyde
2. DNPH-Propionaldehyde 5. DNPH-Isovaleraldehyde
3. DNPH-n-Butyraldehyde 6. DNPH-n-Valeraldehyde
(1.0 µg/mL each)

注) イソクラティック条件のアプリケーションもございますので別途お問合せください。

Restek Corporation、SCP SCIENCEをはじめ、多くの分析用標準試薬を取り扱っています。

特許第 505524 号

DIK-2610

無粉塵型自動粉碎篩分け装置

RK4II

- ・ 環境分析の土壌粉碎・篩分けに最適
- ・ 土壌前処理時間の大幅な短縮を実現
- ・ 多試料の土壌粉碎と篩分けが短時間で可能
- ・ 粉塵がでないため、放射能汚染土壌の粉碎や篩分けも安心
- ・ 土壌の粉碎と直径 2mm 以下の篩分け工程が 1 台の装置で可能

無粉塵

粉 碎

篩分け

短時間

多試料



Webで
動画公開中!!

Web検索 無粉塵型

検索

土と水を守る

本社・工場 〒365-0001
西日本営業所 〒520-0801

大起理化工業株式会社

埼玉県鴻巣市赤城台212-8
滋賀県大津市におの浜2-1-21

<http://www.daiki.co.jp>

TEL 048-568-2500
TEL 077-510-8550

FAX 048-568-2505
FAX 077-510-8555

Ecologically Clean



オルガノ代理店 株式会社 東京科研

Ultra Purewater Technology of ORGANO

オルガノの超純水技術を凝縮した卓上装置の決定版!

超純水装置 **ピューリック® FP-^α** 純水装置 **ピュアライト® PR-^α**

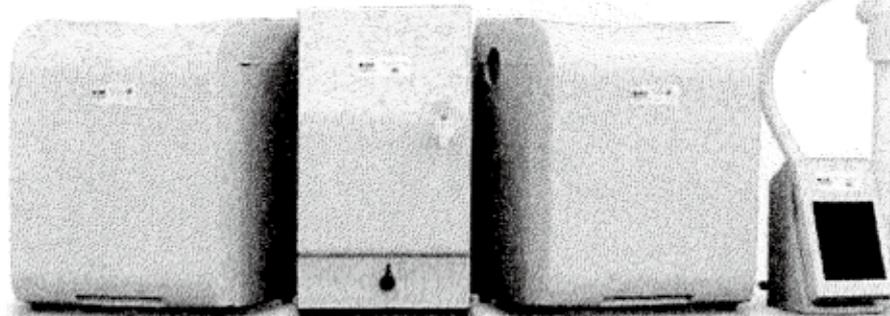
アルファ

多様のニーズに応える多彩な機種をラインナップ。

高い水質グレードだけでなく、操作性、デザイン性まで突きつめた

新しい **α** の領域を体感下さい。

高品質・消耗品の低コストを実現いたしました。



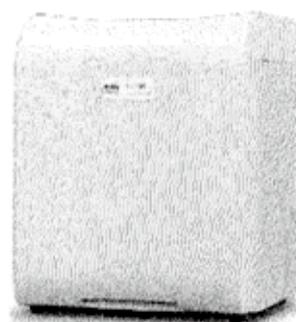
- ディスペンサー特殊ノズル。
1滴採水～最大流量でも飛散の少ないスムーズな採水可能。
- 採水口の菌汚染対策用に
新型UVの有無を選択できます。
- タンク内の制菌用に
新型UVの有無を選択できます。

- 高性能ディスペンサ / 超純水、純水合わせて3台まで搭載可能。(7.5mの範囲) / 「タッチパネル付」

超純水装置 **ピューリック FP-^α**

- FP-0120^α-UT0 (UF仕様 TOC計付) 標準価格 ¥1,340,000
- MT0 (MF仕様 TOC計付) 標準価格 ¥1,205,000
- M00 (MF仕様) 標準価格 ¥812,000

- 超々純水用に独自精製した次世代イオン交換樹脂を採用しました。TOC溶出を最小限にしたイオン交換を二段処理しますので高純度かつ低TOCな超純水を安定的にご使用できます。
- 全ての機種で超純水タンク循環システムを採用しました。循環ラインから外れた場所で溶出や汚染の起きやすい採水口フィルターをつけなくても各種高感度分析に使用できます。
- 各種オミクスなどのバイオ研究用にUF仕様を採用すれば、RNase、DNase、エンドキシンフリーな超純水をご使用できます。またDEPC処理を不要にできますので、処理後のオートクレーブも不要です。

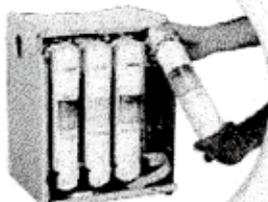


純水装置 **ピュアライト PR-^α**

- PR-0015^α-000 (ベース仕様) 標準価格 ¥669,000
- X00 (A4準拠) 標準価格 ¥875,000
- XT0 (A4準拠 TOC計付) 標準価格 ¥1,258,000

- 簡単操作で低コストなワンタッチカートリッジを採用しました。カートリッジ交換が簡単装着可能。
- 純水装置では実現できなかったJIS K 0557 A4グレードの水を製造可能になりました。A4対応蒸留器の代替として節電、節水の省エネルギー化を実現できます。

簡単操作な
ワンタッチ
カートリッジ



お問い合わせ先 株式会社東京科研 機器営業部 TEL.03-3611-3817

さらに進化したニューコンセプトIC…

イオンクロマトグラフィー システム

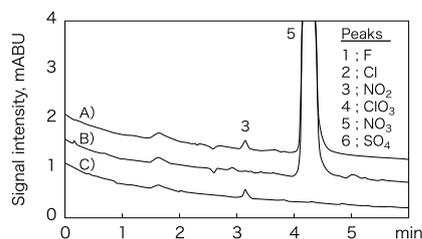
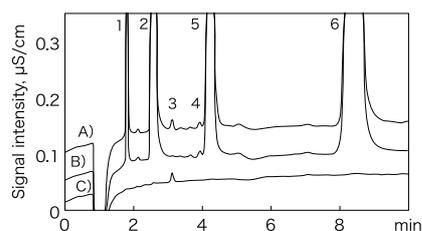
IC-2010

IC-2010



イオンクロマトグラフィー システム IC-2010

水道水中の亜硝酸態窒素の測定



(上段:電気伝導度検出, 下段:紫外吸光度検出)

カラム: TSKgel SuperIC-Anion HS (4.6 mm I.D. x 10 cm)
 検出: 電気伝導度検出(サプレッサ使用)
 紫外吸光度検出(210 nm)
 試料: A) 亜硝酸イオンを添加した水道水(NO₂-Nとして0.004 mg/L)
 B) 水道水
 C) 亜硝酸イオン標準試料(NO₂-Nとして0.004 mg/L)

高速
多検体

- ▶ 測定時間5分のハイスループット分析を実現
- ▶ 内蔵オートサンプラによる連続多検体処理に対応

高機能

- ▶ 希釈時間5分の自動希釈機能を搭載
- ▶ 水道GLPサポート機能を搭載

高感度

- ▶ 自動交換型ゲルサプレッサ方式で高感度分析が可能



東ソー株式会社
 バイオサイエンス事業部

東京本社営業部 ☎(03)5427-5180 〒105-8623 東京都港区芝3-8-2
 大阪支店 バイオサイエンスG ☎(06)6209-1948 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
 名古屋支店 バイオサイエンスG ☎(052)211-5730 〒460-0008 名古屋市中区栄1-2-7
 福岡支店 ☎(092)781-0481 〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2
 仙台支店 ☎(022)266-2341 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1
 山口営業所 ☎(0834)63-9888 〒746-0015 山口県周南市清水1-6-1
 カスタマーサポートセンター ☎(0467)76-5384 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2743-1
 バイオサイエンス事業部ホームページ <http://www.separations.asia.tosohbioscience.com/>

写真整理や帳票作成の手間を軽減します！

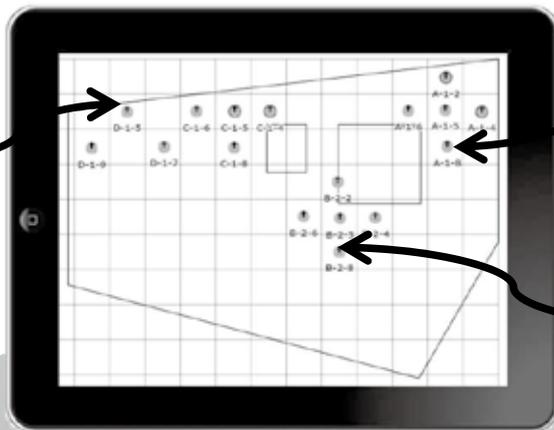
土壤調査支援システム pictum土壤調査版

帝人エコ・サイエンス株式会社監修

製品の特長



ボーリングバー
削孔状況



施工後



検尺

写真整理！



簡単帳票作成！



データ共有！

タブレットを現場で活用すると…???

- ✔ 地歴調査の現地踏査写真整理業務、工数80%削減！
- ✔ 土壤汚染状況調査の写真整理業務、工数50%削減！
- ✔ 現場管理者が調査進捗状況をリアルタイムに確認可能！
- ✔ 作業員が試料採取済み箇所を瞬時に把握！

pictum

検索

■製品のお問い合わせ

日本コントロールシステム株式会社
<http://www.nippon-control-system.co.jp/>

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-18 三富ビル新館5F
TEL : 03-3443-5081 (ピクタム担当)
MAIL : pictum@nippon-control-system.co.jp

ビーエルテックの自動化学分析装置

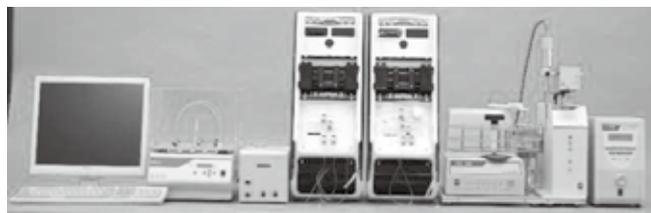
BLTEC 新型オートアナライザー 「SYNCA」

ふっ素 シアン フェノール類 全窒素 全りん

- 1 新開発の光学系により測定レンジが広がりました。
- 2 デテクターの向上(24ビット)によりデータ量が多く取り出すことができます。
- 3 ふっ素、シアン、フェノール類の蒸留、発色操作も自動で行えます。
- 4 全窒素全りんのオートクレーブ分解、発色操作も自動で行えます。
- 5 自動洗浄装置装着時、自動プラテンリリースできます。
- 6 国内生産です。
- 7 JISK0102対応メソッドです。1時間20検体測定ができます。
- 8 原理は、気泡分節型連続流れ分析法(CFA)で計量証明機関で多くの実績があります。



SYNCA - ふっ素シアン



SYNCA - 全窒素全りん

2013年9月20日に
流れ分析水質試験方法(JISK0170)
が工場排水試験法(JISK0102)に
収載されました。

2014年3月20日に環境省告示に
流れ分析法が追加されました。

JIK0102	項目名	JIK0102	項目名
28.1.3	フェノール類	43.1.3 43.2.6	亜硝酸イオン 硝酸イオン
30.1.4	陰イオン界面活性剤	45.6	全窒素
34.4	ふっ素化合物	46.1.4 46.3.4	りん化合物 全りん
38.5	シアン化合物	65.2.6	クロム(VI)
42.6	アンモニウムイオン		

全自動酸化分解前処理装置

DEENA

特長

1. 試薬を自動で導入できます。
2. 自動で加熱をします。
3. 内部標準も入れられます(オプション)
4. メスアップも自動で行います。



DEENA60
(50mlバイアル 60本掛け)



DEENAm
(50mlバイアル 30本掛け)



ビーエルテック株式会社 <http://www.bl-tec.co.jp>

本 社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル2F
TEL:06-6445-2332 FAX:06-6445-2437

東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモトビル4F
TEL:03-5847-0252 FAX:03-5847-0255

九州支店 〒811-3311 福津市宮司浜1-16-10-101
TEL:0940-52-7770 ※FAXは本社へ

MIKAMI

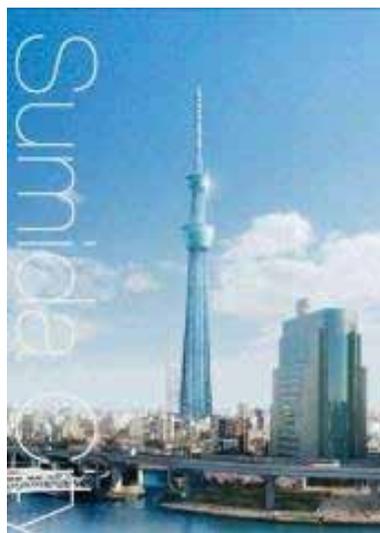
MIKAMI Co., Ltd.

「お客様の必要とするお品物を必要な時間までに」

私達株式会社ミカミは、化学薬品を基盤に、研究開発用高純度試薬、理化学機器等の販売を通じ、新製品開発分野、衛生管理分野、バイオ、IT、環境関連の新エネルギー分野で活躍されている幅広いお客様に多くのことを教えて頂きながら、お客様と共に、更なる21世紀の発展の一助になれるよう努力いたします。将来、業界の発展のために、“日々勉強”の気持ちを忘れず、お客様のお役にたてますよう、これからも弛まぬ努力を惜しまず、社員一同精進して参ります。

営業内容

試薬・医薬品・動物薬品・理化学機器・修理・中古機器



株式会社ミカミ

〒131-0032 東京都墨田区東向島5-4-12

TEL:03-3610-0331 FAX:03-3610-0334

E-Mail: info@kkmikami.co.jp

HP: <http://www.kkmikami.co.jp>

超純水初！ ラボ市場初*！
水銀フリー UV ランプ搭載

MERCK

超純水製造装置 Milli-Q® IQ 7000

最高水質の超純水を超簡単・超快適に採水
一つのユニットから多目的のアプリケーションに対応

使いやすい Q-POD

- タッチスクリーンにてスマートフォンのように分かりやすい操作

水銀フリー ech2o® UV ランプ



- 世界初*、超純水精製用、TOC 測定用の UV ランプが水銀フリー
- UV 波長が 172 nm になり、従来の水銀ランプと比較して、有機物分解効果が向上
- TOC 測定用の UV ランプもちろん水銀フリー

* 弊社調べ

効率性・使いやすさを追求した 2 種類の定量採水



① 定量採水

必要な量を設定して採水。小容量から大容量までどんな用途にも対応します。

② アシスト定量採水

設定量の 96% までは高スピードで採水。その後一滴ずつの採水モードに自動で移行。停止は手動で行うことで、標線ぴったりに採水できます。

メルク株式会社

ライフサイエンス ラボウォーター事業部
〒153-8927 東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー 5F
製品の最新情報はこちら www.merckmillipore.jp/LW
On-Line: www.merckmillipore.jp/jpts
Tel: 03-4531-3939 Fax: 03-5434-4875



あたらしい
Milli-Q がでたよ

The life science business
of Merck operates as
MilliporeSigma in the
U.S. and Canada.

Milli-Q®

Lab Water Solutions